

稲作は、昔から私たちが生きる上で最も大切な生業として重視され
それによって得られるお米は
神様が食される神聖な食物であると同時に
生きてゆく糧として、いわば「生命の根源」として、今日まで大切に受け継がれてきました。

勤労感謝の日から新嘗祭の復興 新嘗のころ

国学者の本居宣長も稲を「命根」、つまり「生命の根源」であると評しているように
神社でお供えされる神饌も米、続いて酒、餅と「米」を欠かすことができません。
そして日本人は、毎年の稔りの感謝を神様にこころで表し、そこから「祭り」や「儀礼」などの精神文化も発展させました。
「新嘗のころ」は、日本文化の根底にある「稲作」と新嘗祭のこころを学び
私たちが忘れてきている稔りの喜びと感謝を学ぶ講座です。

第1回 宮中の新嘗祭

○日時：平成29年10月19日（木） 18：30～20：00

新嘗祭は、天皇陛下が神嘉殿において新穀を皇祖はじめ神々にお供えになり、神恩を感謝された後、陛下自らもお召し上がりになる祭祀です。本講座では新嘗祭を知り、日本の精神文化の原点を学びます。

第2回 神宮の神嘗祭

○日時：平成29年11月22日（水） 18：30～20：00

伊勢の神宮において神嘗祭は、その年の新穀を大御神に奉り、ご神徳に報謝申し上げ、皇室の弥栄、国家安泰、五穀豊穰、国民の平安を祈るもっとも重要な祭祀です。本講座では新穀感謝の心を学び、日本文化の地下水脈を探求します。

主催 一般財団法人 日本文化興隆財団
講師 小野善一郎先生
湯島天満宮権禰宜・國學院大學講師
会場 日本文化興隆財団会議室
開催時間 18時30分～20時00分（90分）
募集人員 120人
参加費用 各回1,000円
※当日受付にてお支払いください。

テキスト

『新嘗のころ』
勤労感謝の日から新嘗祭の復興
小野善一郎著

A5判 121頁 青林堂発行 1,200円＋税

テキストは必ずご購入下さい。
すでにお持ちの方は必ずご持参ください。
事前購入されたい方は当財団までお問い合わせ下さい。



【申し込み方法】 下記申込書にご記入の上、FAXにてお申し込み下さい。HP・電話でも受け付けております。

FAX 03-3475-5805

<http://www.nihonbunka.or.jp>

興隆財団

検索

一般財団法人日本文化興隆財団 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-5-10 電話03-5775-1145

郵便番号	住所	氏名
電話	FAX	メールアドレス
新嘗のころ <input type="checkbox"/> 第1回を受講します <input type="checkbox"/> 第2回を受講します		